

一般質問の要旨



障がいがある高齢者への支援について

佐藤 真

問 障がいがある方が65歳以上になると、その支援は、原則として障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行するが、周知の方策は。

答 周知は、障がい福祉サービスに係る相談支援専門員や職員が直接案内し、誤解や不安がないようにしている。今後も一人一人に丁寧に対応する。

問 移行の手續きに複数の窓口を行き来するのは負担が大きいとの声もあるが、当事者に寄り添った窓口対応の方策は。

答 当事者の状況に応じて、職員が他の窓口へ同行して説明の手助けを行ったり、他の窓口から職員が移動して対応している。引き続き、窓口を気持ちよく利用できるよう、当事者に寄り添った対応を行う。

問 学校での新しい生活様式に対応した感染症防止の方策は。

答 このたび作成した「日高市学校生活新スタイル」に基づき、3密になる状況を避けることを徹底している。特に換気と湿度管理を徹底し、授業でも非接触を意識した教育内容の見直しを図りつつ、教育活動の工夫をしている。

問 感染症対策を進めながら教科の特徴や良さをどのように維持するのか。

答 音楽や体育の授業では身体接触や発声を伴うことが多いが、場面に応じマスクを着用するほか、間隔を空けた集合や整列グループ分け等で必要以上の身体接触を避けるなどの工夫をしている。

問 生活様式の変化にストレスを感じる子どもに寄り添うため、また感染のリスクを減らすために、

これからの学校教育について

少人数学級の実現と教員の確保を求める声が上がっているが、これらについての見解は。

答 少人数学級は、学習面や生活面において児童生徒へ目が行き届き、教育の質の向上が期待できると考える。教育委員会としても、児童生徒へのきめ細やかな指導・支援の重要性は認識しており、県教育委員会に加配教員の配置を強く要望している。

問 近年、核家族化などが進み育児を実家などに頼れない母親は、不安や孤立感から、うつや児童虐待などにつながる心配があるが、産後ケアは、どのように行っているか。

答 子育て支援の事業として、保健相談センターが主に妊娠前から子育て期にわたる支援を行う「母子保健型」と、子育て総合支援センターが主に子育てに関する総合的な支援を行う「基本型」がある。「母子保健型」では、助産師を配置し、訪問・電話・面談による母子の体調確認や育児相談を実施している。支援の期間や回数に制限等はなく、利用料も無料である。

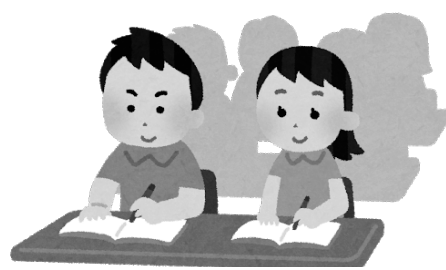
問 多胎児の保護者を対象にした民間の育児調査では、「外出・移動が困難」との回答が約9割あったが、訪問による支援体制

は、産後早期に訪問し、産婦の心身の状態を確認するとともに、お子さんの退院に備え支援している。他のサービスの利用希望には、可能な範囲で仲介をしている。

問 産後ケアに関する職員研修の状況は。

答 県主催の研修会や狭山保健所の事例検討会に毎回参加している。

問 子育て支援を所管する市組織の横断的な情報共有はできているか。



一人一人に行き届いた教育を

答 個人情報保護に留意しつつ、緊急性が高い事例には、連絡を密にして支援に努めている。

問 一般廃棄物処理業について

問 し尿収集運搬の交付金と手数料は適正か。

答 近隣の所沢市、飯能市、狭山市、入間市との比較では、本市は高水準であり適正である。



産後ケアについて

三木 伸也

問 コロナ禍で税収減が予想されるが、ごみ収集運搬処理業者への委託費は減額せずに維持可能か。

答 委託費維持を図る。

問 感染症のリスクを負っているごみ収集運搬業者へ感染予防用品を提供することは。

答 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。

問 コロナ禍で働くごみ収集運搬業者の方々に感謝の趣旨で市に寄附金があり、これを活用してマスクを提供した。



ごみ集積場にあった感謝のメッセージ